

かいごげんば み かいご 「介護現場から見た介護ロボット」

かいご はかせ
介護ロボット博士



とくやま はじめ
徳山 創

しゃかいふくしほうじんぜんこうかい
社会福祉法人善光会

かいご じんこうちのうけんきゅうしつちょう
介護ロボット・人工知能研究室長

- ぎょうせい しせつ ちゅうかいしゃ
● 行政、メーカー、施設の仲介者として、
かいご きかく かいはつ どうにゆう そくしん
介護ロボットの企画・開発・導入を促進
- システムエンジニアとして、
かいご やくだ かいはつ
介護に役立つソフトウェアを開発



もくじ

- ^{かいご}介護ロボット^{なに}って何？
- ^{かいご}介護ロボット^{なに やく た}は何の役に立つ？
- ^{かいご}介護ロボット^{おもしろ}の面白さ
- ^{かいご}介護ロボット^{むずか}の難しさ
- ^{かいご}介護ロボット^{きたい}への期待

かいご なに 「介護ロボットって何？」

いっぱんてき い かいご
一般的に言われる介護ロボットとは

- ・ センサーにより感知し、判断して動作する機械
かんち はんだん どうさ きかい
- ・ 介護が必要な人の支援や介護する人の支援ができる機械
かいご ひつよう ひと しえん かいご ひと しえん きかい

かいごしせつ み かいご
介護施設から見る介護ロボットとは

かいご てつわん
介護ロボットはドラえもんや鉄腕アトムのような、なんでもできるロボットとおも
思われることもありますが、まだそんなロボットはありません。

うご はなし うご
いまは、動かなくてもお話をするようなロボットやちょっとした動きをする口
ボットも介護ロボットと呼ばれます。
かいご よ

ぎじゅつかいはつ すす あたら かいご う
技術開発が進んでおり、どんどん新しい介護ロボットが生みだされています。

「介護ロボットは何の役に立つ？」

かいご ひつよう いじょうかいじょ
介護に必要な「移乗介助」とは

ある こんなん かた くるま つか
歩くのが困難な方は車いすを使われる
ことが多いですが、生活の中で車いす
からトイレ、ベッドから車いすへ移る
ときに必要となる介助です。



かいご つか
介護ロボットを使うと

いじょうかいじょ からだ まちが
移乗介助は、体のつかいかたを間違える
と腰に負担がかかることから腰痛の原因
になるといわれます。移乗支援の介護ロ
ボットを使うと腰の負担が軽くなります。



かいご おもしろ
「介護ロボットの面白さ」

うご
動く



ひと やく た
人の役に立つ



ぎじゅつ あつ
いろいろな技術が集まっている



かいご むずか 「介護ロボットの難しさ」

ひとりひとりに合った^{かいご}介護ロボットを見定め^{みさだ}ないといけない
いま ^{だれ} ^あ ^{かいご}
今は、「誰にでも合う介護ロボット」がなかなかありません。
^{こうれいしゃ} ^{からだ} ^{おう} ^{てきせつ} ^{かいご} ^{みさだ} ^{つか} ^{ひつよう}
高齢者の体に^{おう}応じて適切な^{てきせつ}介護ロボットを見定^{みさだ}めて使^{つか}う必要^{ひつよう}があります。

^{つか}
使^{つか}うのに^{つか}トレーニングを^{つか}しないといけない
^か ^{でんげん} ^い ^{だれ} ^{つか} ^{かいご}
買^かって^{でんげん}きて^い電源^{だれ}を入^{つか}れる^{かいご}だけで「誰にでも使^{つか}える^{かいご}介護ロボット」がなかなかあ
^{こうしゅうかい} ^う ^{れんしゅう} ^{つか}
りません。講^{こうしゅうかい}習^う会^{れんしゅう}を受^{つか}けて練^{れんしゅう}習^{つか}して使^{つか}えるようになり^{つか}ます。

^{せつび} ^{ととの}
設^{せつび}備^{ととの}を整^{せつび}え^{ととの}ないといけない
^{せつび} ^{つか} ^{つうしん}
セン^{せつび}サー^{つか}などの機^{つうしん}器^{つか}はセン^{せつび}サー^{つか}だけでは使^{つか}う^{つうしん}こと^{つか}が^{つうしん}でき^{つか}ず、^{つうしん}ネッ^{つか}トワ^{つか}ーク^{つうしん}通^{つか}信^{つうしん}
^{せつび} ^{ひつよう} ^{ひろ} ^{しせつ} ^{こうじ} ^{たいへん}
する^{せつび}た^{ひつよう}めの^{ひつよう}設^{ひろ}備^{しせつ}が^{こうじ}必要^{たいへん}とな^{たいへん}り、^{たいへん}広^{たいへん}い^{たいへん}施^{たいへん}設^{たいへん}に^{たいへん}工^{たいへん}事^{たいへん}する^{たいへん}の^{たいへん}が^{たいへん}大^{たいへん}変^{たいへん}です。

「介護ロボットへの期待」

かいご ふたん へ
介護をする負担が減る

かいご ところ からだ ふたん おお
介護をすると心と体の負担が大きいとい
言われています。まだ、負担を大きく
減らすまではできていませんが、今後
大きく負担を減らす期待があります。

かいご しつ よ
介護の質が良くなる

かいご つか ひと
介護ロボットを使っていくことで、人の
目にだけ頼った介護では気付けなかった
気付きを得ることができます。より良い
生活に向けた介護をすることができます。



すいみん しつ み か すいみんかいぜん れい
睡眠の質を見える化し、睡眠改善した例

